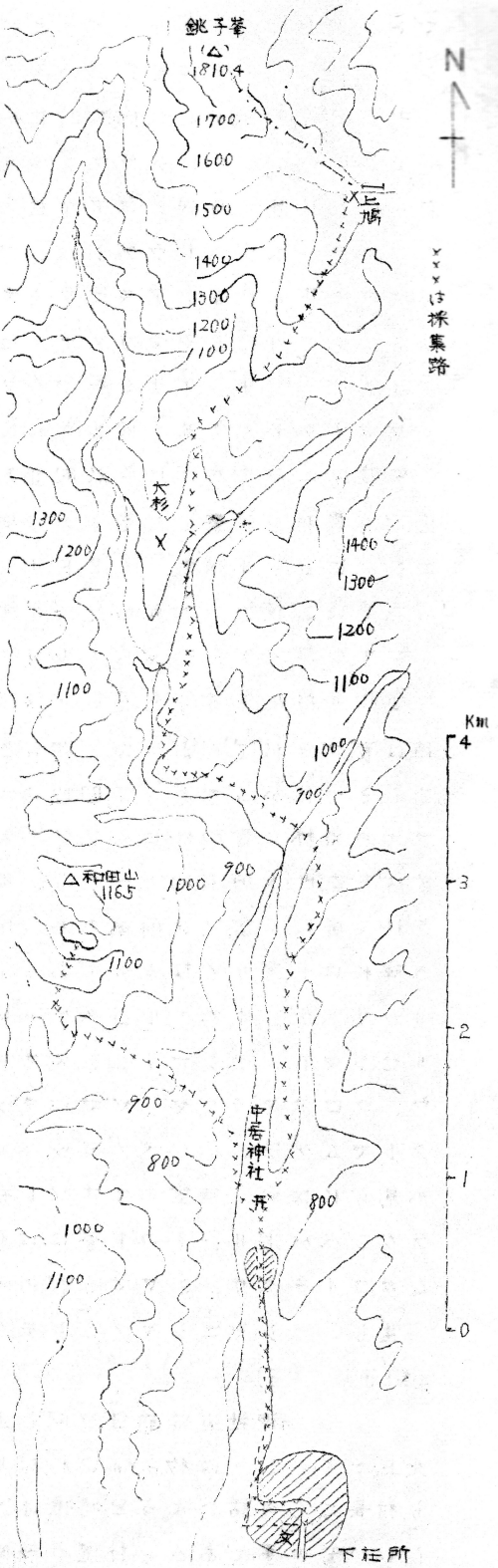
大野郡石徹白方面 植物採集記

〔概要〕 昭和28年8月1,2の両日に亘って、堀芳孝、吉田佐内、荒川久兵衛、寒蝉義一の一行は博物館の資料蒐集を目的として大野郡石徹白村方面に植物採集を行った。1日午前10時に省営自動車で石徹白駅に着いた一行は早目の昼食をすませ和田山方面に出かけ、翌2日は岐阜県境にそびえる白山連峯の銚子峯(標高1810.4m)の採集を行ったので、その概況を報告する。

〔和田山方面〕

自動車停車場のある中在所から上在所までの道は山麓を切り開いた段々畑の間を通る。もっとも最近は水利の便を得て自給自足の出来る田が開けて居る。この辺の眺めは県境の山々が美しく、右から六日岳、天狗山、丸山、銚子峯、三峯と連り、銚子峯、三峯の左手前に本日の目標地和田山がある。30分許り歩いて上在所を過ぎた所、石徹白川の傍に白山中居神社がある。この境内にある杉の森は何れも大木で real 原始の姿を保ち、既に県の天然記念物に指定されて居るとの事である。

こゝを過ぎ川を渡り自家発電による製材所横の小径から和田山にかゝる。この辺の河原にはヤマハンノキ、オノエヤナギの群落があちこちに見られる。山道にかゝるとヘビノネゴザ、ヒメシダ、サトメシダ等の羊齢が現れ、タマアジサイの可憐な花が美しい。バライチゴの白い花と赤黄色の果実も印象的



である。樹木にはウリハダカエデ、イタヤマカエデが多く、キハダ、シロモジ、タムシバ、クロモジ、ハネミイヌエンジュも見られる。

中腹(標高900m)からは比較的本県には少いシラカンバが白い樹皮を日光に照して美しい。しかしシラカンバの大木は殆ど切られて居るのが残念である。登るにつれ道の両側にはアカモノ、シロモノが多く、アスヒカズラ、ヒカゲノカズラ、ホソバトウゲシバ、マンネンスギ、シロベナシヤクナゲ等の群落が所々に見られる。アスヒカズラは今回の発見が我々としては最初のものである。その外にミヤマヨメナ、ヒメモチ、ヤマトシバナ、ヤマカモジグサ、アリノトウグサ、オオミヤマイヌワラビ、イヌワラビ、カラクサイヌワラビ、ミヤマイタチシダ等も採集された。

中腹以上の樹木は切られ開墾されて居るので植物の種類は少い。しかし開墾地の農耕を放棄して居るのは何故であろうか、いたずらにススキ、オトコエシ、ヒヨドリバナ、イタドリ、タケニグサ、ヤブマオが繁るばかりである。

我々は山頂近くの和田池にオオワレモコウ、ヒメクワホネ、オオカサスゲ、オニナルコスゲ、ジュズナルコスゲ、エッコウハリスゲ、ミタケスゲ等特殊な植物の存在する事を過去の記録から知り待望して居たのであるが、この期待は裏切られてしまった。即ちこゝにも開墾の手がのび、池の環境は一変してしまつたからである。凹地は二ヶ所あり、その一つは濃紺の水をたゝえ、ブナの密林に覆われヒメクワホネの黄色の花盛りであるが、土地の人が「草池」又は「あせ池」と呼ぶ他の一つは、周囲の樹木が切り拂われ、日光の直射にさらされて居た。當日は雨後の為10cm程の水があつたが、樹木伐採の為照れば乾き降れば水溜りとなるのであろうか、上記の湿原生りスゲは少く、僅かにオオカサスゲ、オニナルコスゲが見られたのみである。その他の植物もヤマドリゼンマイ、ゼンマイ、ミズオトギリ、エゾシロネ、ザゼンソウ、アイバソウ、クロアブラガヤ、ヤマソチツ、シラネワラビ、タニタデ、ヘラオモダカ、クルマムグラ、ホソバノヨツバムグラ、ホソバイヌワラビ、ツルニゲクサ等が見られたが、待望のオオワレモコウは遂に得られなかつた。ブナ林にはシラカンバが混り、その下層にはイタドリ、ウド、ノツボロガンクビソウ、ムカゴイラクサ、ミヤマイボタが生えて居た。又ブナの大木にはヤドリギが寄生し、ヤシヤビシヤク、ホテイシダ、ミヤマノキシノブが附着して居た。

(銚子峰方面)

白山中居神社迄は前日と同じ道を通り、こゝから石徹白川に側い白山路を北上する。こゝは約8Kmにわたり林道が開通して居るので道幅は広い。後から村長さんの話によると將来はこの道を白山頂上迄延し、ドライブウエイにしたいとの事である。林道の両側にはオニグルミ、トチノキ、ミズナラ、イ

タヤカエデ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、ヒトツバカエデ、ヤマハンノキ、オバルハンノキ、キハダ、ヨグソミネバリ、フサザクラ、カツラ、マユミ、ハリギリ、タラノキ、メダラ、エゾユズリハ、アカシデ、クマシデ等があり、特にトチノキ、イタヤカエデ、ヤマハンノキ、オバルハンノキ、カツラ等が目立つ。之等の下には潅木や草木が種々あるが、クサアジサイ、タマアジサイ、ナワアジサイ、ソバナ、サルナシ、マタタビ、ヤマブドウ、ハンゴンソウ、サワアザミ、オトコエシ、ヤマヨモギ、ヤマニガナ等が多く、珍らしいものとしてミツモトソウ、ザゼンソウ、ミヤマニガウリ、ミツバオウレン、フクオウソウ、ヒメヘビイチゴ等が見られた。羊齒の種類も多く、ヤマソテツ、クサソテツ、イヌガンソク、カラクサイヌワラビ、ヤマイヌワラビ、ホソバイヌワラビ、ジユウモンジシダ、ヤワラシダ、ハリガネワラビ、ケニワコウシダ、ヘビノネゴザ、ヒロハヘビノネゴザ、リヨウメンシダ、オシダ、ミヤマベニシダ、キヨタキシダ、シノブカグマ、ナライシダ等がある。

やがて林道からそれ小道を2Km程登ると文部省天然記念物指定の大杉がある。この杉は日本最大のもので、高さ5丈3尺3寸、目通し5丈5尺と云うが、管理の不完全な事と既に老年に達したものか、衰弱甚だしく下部の枝葉は殆ど見られない。至急保存の方法を講じなければならないと思う。この辺には尚若干の大杉があるが、いつ伐採されるかも知れない状態で、現に別山に建てる堂の為にその一本が切られて居た。

こゝから山道はいよいよけわしくなる。この辺には、ミヤマシシガシラ、ツバメオモト、オオバシヨリマ、ユキザサ、オオバユキザサ、タケシマラン、ツクバネソウ、アカモノ、オニシモツケ、ヒメイチゴ、コイチヨウラン、マイズルソウ、フクオウソウ、ゴゼンタチバナ、ムラサキヤシオツツジ、オオバツツジ、ウラジロヨウラク、コヨウラクツツジ、シラタマノキ、イワナシ、イワカガミ、ミヤマニガナ、ミヤマイボタ、アクシバ、スノキ、ウスノキ、ヒメヘビイチゴ、クロズル、マイズルソウ等が現れ、樹木は相変らず、ブナ、シラカバ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ウリハダカエデが多い。この林をぬけた所に少数であるが、アオモリトドマツが目立ち、アカミノイヌツゲ、イヌツゲも見られる。

こゝを過ぎると土地の人が正鶴(神鶴)と云うやゝ開いた所に出る。昔山伏の籠つた所と云い、大杉からは6Km許り、標高は1600m程であろう。この附近には、ゼンテイカ、オオデゴユリ、クルマユリ、マルバダケブキ、ハクサンフウロ、ギヨウジヤニンニク、オニシモツケ、ツマトリソウ、ミヤマスミレ、イワノガリヤス、ヒゲノガリヤス、ミヤマコウゾリナ、サンカヨウ、ヤマヌカボ、ネバリノギラン、イワウグミ、イブキゼリ、ミヤマメシダ、マル

バマンサク、オガラバナ、ヒメ[illegible]レ等があり、小さいお花畑である。ブナは優木となり、アオモリトドマツはこゝにもある。その他シロバナシヤクナゲ、ミヤマホツツジ、ウスギヨウラク、ムラサキヤシオツツジ、サワフタギ、ヘリベリ等も見られた。

こゝからいよいよ頂上えかゝるのであるが、樹木はいよいよ低く、ダケカンバ、ヤハズハンノキ、オガラバナ、ミネカエデ、ミズキが主木をなし、その下にミヤマホツツジ、ヒメハナヒリノキ、サワフタギがある。そして木本のつきる所に頂上迄続く御花畑が現れ、ヤマハハコ、ミヤマキンポウゲ、ミヤマコウゾリナ、ヒトツバヨモギ、ヤマブキショウマ、クロバナヒキオコシ、ヨツバヒヨドリ、シナノオトギリ、イブキゼリ、タテヤマスゲ、ミヤマニガイチゴ、ゴヨウイチゴ、シモツケソウ、ノアザミ、クルマバハダマ、マイズルソウ、ミヤマニガナ、ゴゼンタチバナ、イタドリ、ハクサンヂドリ、オオバギボシ、エゾリンドウ、クルマユリ、オオチゴユリ、ミヤマナルコユリ、コバイケイソウ、ヤグルマソウ、エンレイソウ、ツマトリソウ、ツクバネソウ、エゾノヨツバムグラ、ササユリ、イワナシ、ゴゼンタチバナ、ヒメイチゲ、アカモノ、シロモノ、イワカガミ、ツルリンドウ、ネバリノギラン、タカネコウボウ、ヤマヌカボ、ヒゲノガリヤス、シラネワラビ、ミヤマワラビ等が見られた。　（寒輝義一記）

郷土研究紹介

福井県産最古のハスの化石について

〔北陸の植物第三巻第一号　1954年1月〕

金沢大学理学部地質学教室　松尾秀邦

今立郡上池田村四竜にある石炭を稼行した旧坑の捨り中から発見した、ハスの化石について記載してある。従来我が国で発見されたハス属の化石は古第三紀より旧いものはないが、この化石は白堊系上部に属するもので、之は日本のみならず東亜でも最古のものである。従来ハス属の原産地については、牧野富太郎博士の印度説に対して、大賀一郎博士は印度のみならず東亜の各地をも含めて多元説を称えて居る。この化石の存在によつて、日本もハス属の原産地であると云う説に有力な証拠を与えるものとなろう